

古代の集落 下川原遺跡

下川原遺跡は水口町泉に所在します。第二次調査(平成17年度)で7世紀前半から中頃の盛期とする50棟の竪穴住居と11棟の掘立柱建物が発見され、第五次調査(平成18年度)では遺跡の東半分、広範囲にわたって竪穴住居が発見されました。また、同じ地域で実施した第十次調査(平成20年度)でも8世紀の竪穴住居と掘立柱建物を発見しました。

これらの調査成果から下川原遺跡は東西約1キロメートル、南北約300メートルの範囲にわたり、6世紀末から8世紀後半にかけて長期間存続した大規模な集落であったと想定できます。下川原遺跡が発見される以前は、水口地域の古代の集落は、植遺跡(古墳時代)しか見つかっておらず、それに続く時代の集落の存在が分かりませんでした。

調査で確認された遺構の年代は遺跡の西半分では7世紀前半から中頃が中心、東半分では8世紀前半から中頃が中心であり、時代が経つにつれ、集落の中心が西から東へ移動していることが推測できます。周辺には北泉遺跡や北脇遺跡があり、各遺跡の

問い合わせ

歴史文化財課 埋蔵文化財係

☎ 086-8026 ☎ 086-8216

年代から変遷の順序は植遺跡→下川原遺跡→北泉遺跡→北脇遺跡と推定され、人々の生活の中心が野洲川南岸から北岸へ、その後、野洲川北岸を西から東へと移動していることが分かります。

第二次調査で出土した土器の中には関東地方で作られた土器もあり、県内の同時代の遺跡ではまれな特徴です。また、7世紀後半の桶巻作り平瓦も出土しています。これは、現在、市内で出土した唯一の白鳳期の瓦で、県内で唯一白鳳寺院が発見されていない甲賀地域でもその存在を想起させます。

近年の発掘調査によって、謎のベールに包まれていた古代の水口地域が徐々に見えてきました。しかし、集落の詳細な変遷過程や古代以降の下川原遺跡の姿など、不明な点もたくさんあります。それらが明らかに

なり、歴史を解明するためにも今後の下川原遺跡ならびに周辺の調査成果に期待せずにはいられません。



▲上空から見た下川原遺跡遺構

あなたのお口は健康ですか？

介護
予防を
はじめましょう

加齢により、お口の機能が低下してくると、噛む力が弱まったり、物が飲み込みにくくなってきます。また、唾液が出にくくなることで口が渇きやすくなり、口の中が不衛生になりやすいことも分かってきました。

食事がおいしくないことから「食べる楽しみ」が損なわれ、会食などへの参加も消極的になり外出の機会が少なくなるなど、閉じこもりのきっかけになる場合もあります。

このようなことになるまでに毎日の生活の中でできる介護予防に取り組んでみましょう。

お口の健康のためには、まずお口の清潔を保つ事が重要です。

食後の歯磨き(入れ歯のお掃除)に取り組んでみてはいかがでしょうか。

生きがいや目標を持って生活が続けられるよう介護予防に取り組みましょう。

気になる事がある方や介護予防に取り組みたいけれど方法が分からないという方は、気軽に地域包括支援センターへご相談ください。



参考文献

口腔機能の向上についての研究班(厚生労働省)
「口腔機能の向上マニュアル」 2006.3

問い合わせ

水口地域包括支援センター

☎ 65-1170 ☎ 63-4591

土山・甲賀地域包括支援センター

☎ 88-8136 ☎ 88-6557

甲南・信楽地域包括支援センター

☎ 86-8034 ☎ 86-5974